膵がん早期診断プロジェクト
Pancreatic Cancer Project
Obihiro Medical association
SINCE 2018

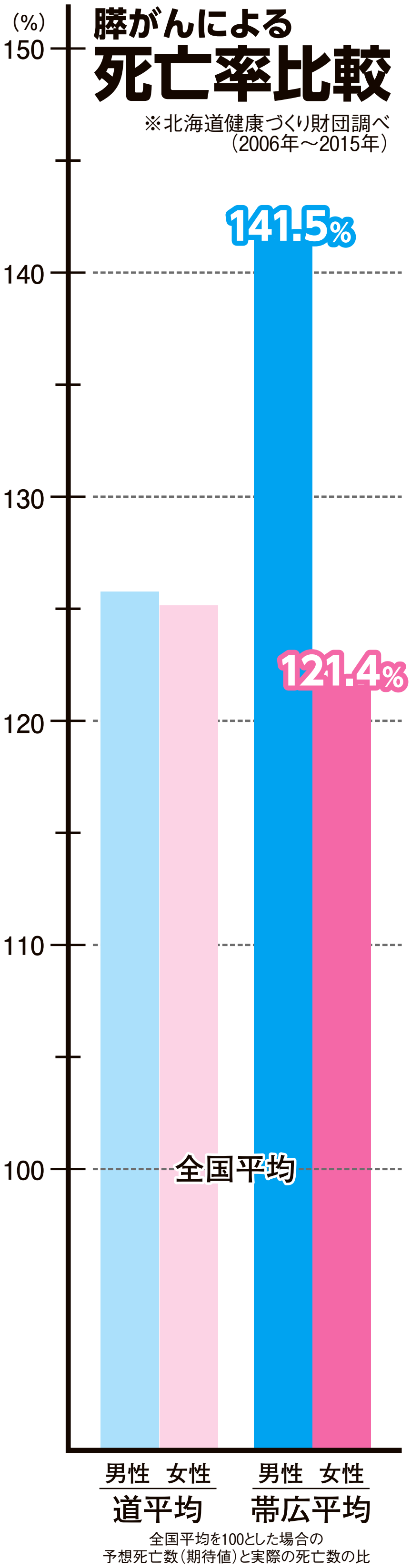
北斗病院は
このプロジェクトに
参加しています。

全国平均を大きく上回る膵がん死亡を減らすことを目的に、十勝管内の消化器内科医が中心となり、2018年「**膵がん早期診断プロジェクト**」を立ち上げました。

～北斗病院での実績 2019年度～

膵がんによる死亡率比較

※北海道健康づくり財団調べ
（2006年～2015年）

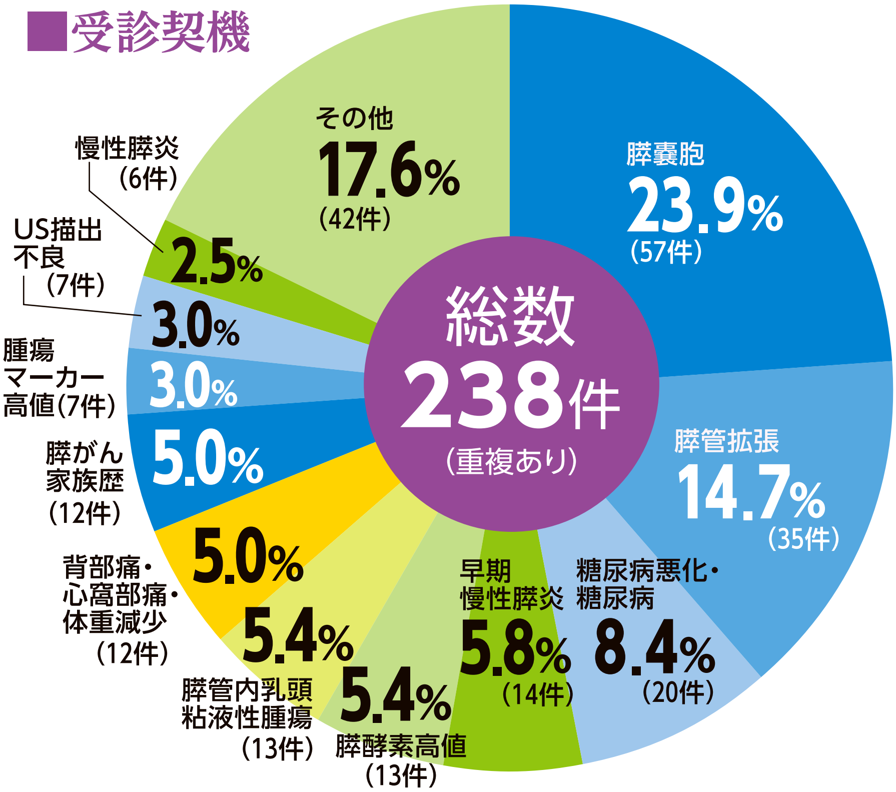


全国平均を100とした場合の
予想死亡数（期待値）と実際の死亡数の比

■膵がんリスク症例数北斗担当分 236件

（2019年度総数）

■受診契機



■膵がん発見数と内訳

ステージ／年度	0	IA	IB	ⅡA	ⅡB	Ⅲ	Ⅳ	総計
2018年度	0	0	1	3	3	0	2	9
2019年度	1※	1	0	5	2	3	7	19

※2019年度には膵がんステージ0（ゼロ）の症例が発見されました。
詳しくは次ページをご覧ください。

北斗病院では膵がんの**診断から治療まで完結**することが**可能**です。膵がんの手術を得意とする**外科医師も在籍**しています。

膵臓の病気が心配な方は、ご相談ください。

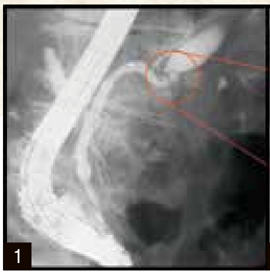
社会医療法人 北斗
北斗病院 消化器センター

Cancer Project association Medical Obihiro Pancreatic
膵がん早期診断プロジェクト
SINCE 2018

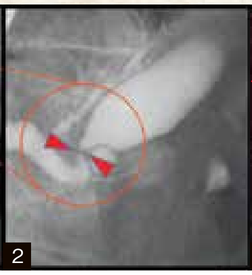
北斗病院は
このプロジェクトに
参加しています。

ステージ0（ゼロ）膵がん診断症例

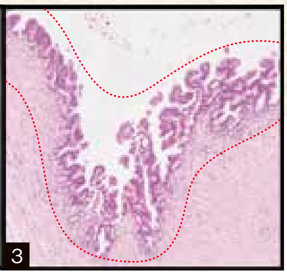
北斗病院 消化器センター 副部長　河瀬　智哉



膵臓の造影検査で
主膵管を造影



病変部を拡大したもの
主膵管のくびれた部分（赤三角で
挟んだ部分）に上皮内がんをみとめた



上皮内がんの顕微鏡像

多くの患者さまを診させて頂いて

2018年から開始された"膵がん早期診断プロジェクト"では初年度から確実にその成果を上げています。小生自身がもともと膵がんの早期発見を専門にしていたこともあり、プロジェクト開始時膵がん発症のリスクをお持ちの方を既に200名以上フォローさせていただいていましたが、この1年数ヶ月の間で350名に到達しようとしています。

プロジェクト開始以来、外来受診される方々から"膵がんの発症をとても心配しているものの、どこに相談したら良いかわからなかった"とお声がけいただくことが大変多く、改めてみなさまの不安を払拭すべく膵癌の早期診断に邁進していかなければならないと日々強く感じているところです。

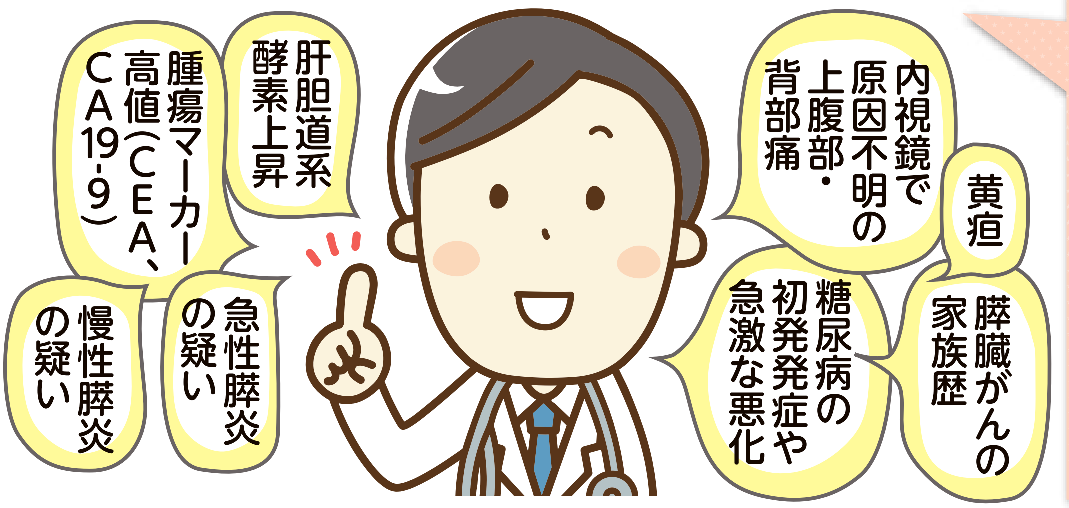
ステージ0 膵がん診断までの経緯

精査依頼でご紹介いただいた方の中で膵上皮内がん（腫瘤や浸潤する前の一番はじめの段階）であったことが判明しました。背部の違和感を自覚されかかりつけの病院でエコーやMRIの検査を受けたところ、膵内に嚢胞をみとめ、その嚢胞の前後で主膵管の太さに変化（経口不動）があったとのことです。確かにCTや超音波内視鏡で膵臓を観察しても当然腫瘤像は全くありませんでした。入院していただき膵管造影の検査を実施したところ、指摘されていた場所に硬い狭窄性病変があることがわかりました（写真❶、❷）。膵液の細胞診検査でがん細胞は出なかったものの、がんの潜在を強く疑う所見です。ご本人・ご家族に説明し手術を受けていただいた結果、今回指摘した部位を中心に上皮内がん（写真❸）が存在していたことが判明しました。当然上皮内がんの状態ですので腫瘤としての塊はどこにもありませんでしたが、がんが腫瘤を作る前からその前兆として膵臓内が変化しているところをかかりつけの先生がお気づきになられたことが功を奏したと言えます。

これからも地域の為に

軽い症状であっても負担のない画像検査を専門の施設で改めて行っていただくことで、より早期の膵がん発見が可能になります。また、この程北斗病院は日本膵臓学会の指導施設として認定いただくことができました。**ご不安な方はお一人で抱えこまず、かかりつけの先生やわたし達に直接ご相談ください。**

北斗病院では超音波内視鏡などの画像診断を行って
膵臓がんの早期発見を目指しています。


内視鏡で原因不明の上腹部・背部痛
黄疸
膵臓がんの家族歴
糖尿病の初発発症や急激な悪化
肝胆道系酵素上昇
腫瘍マーカー高値（CEA、CA19-9）
急性膵炎の疑い
慢性膵炎の疑い

ひとつでも当てはまる場合
主治医やわたし達にご相談ください

詳しくは地域医療連携課までお問い合わせください
☎(0155)47-3093

社会医療法人 北斗
北斗病院
消化器センター